

目黒川道プロジェクト

目黒川沿いの歩行者優先道路化に関する実証実験

- ナカメの課題である歩道の狭さや混雑、滞留空間不足の解決策の検討に向けて、目黒川沿いの区道を対象に歩行者優先道路化に関する実証実験「目黒川道プロジェクト」を実施しました。
- 実証実験では目黒川沿いで過ごす人々にとって心地よい環境が形成されました。

実施概要

実施場所
目黒川沿いの区道の一部
(合流点遊び場付近(日の出橋～宝来橋間))

実施期間
令和4(2022)年10月1日(土)～2日(日)
各日10:00～16:00
※実証実験中の各種調査も上記日時に実施

実施内容
該当区間を車両通行止めとし、歩行者優先の空間を創出



調査概要

	実証実験の実施前	実証実験実施時
通行者アンケート	<p>調査項目 目黒川沿いの区道に対する印象・意見、ナカメの今後のまちづくり など</p> <p>調査の対象 目黒川沿いの区道の通行者</p> <p>日時 令和4(2022)年5月28日(土)～29日(日)</p>	<p>調査項目 目黒川沿いの区道の通行状況、歩行者優先道路化に関する感想・意見 など</p> <p>調査の対象 実証実験対象区間の通行者</p> <p>日時 令和4(2022)年10月1日(土)～2日(日)</p>
アクティビティ調査		<p>調査内容 対象区間で人々がどのようなアクティビティを行っているかを把握</p> <p>調査の対象 実証実験対象区間の滞在者</p> <p>日時 令和4(2022)年10月1日(土)～2日(日)</p>
交通量調査	<p>調査内容 歩行者優先道路化の実施前と実施時の交通量の変化を把握</p> <p>調査の対象 合流点遊び場付近(日の出橋～宝来橋間) 通行者・通行車両</p> <p>日時 令和4(2022)年9月3日(土)～4日(日) 各日10:00～16:00</p>	<p>調査内容 対象区間で人々がどのようなアクティビティを行っているかを把握</p> <p>調査の対象 実証実験対象区間の滞在者</p> <p>日時 令和4(2022)年10月1日(土)～2日(日) 各日10:00～16:00</p>

目黒川道プロジェクト実施時の様子

- 車両通行止めにして歩行者優先の空間で、テーブル・ベンチを設置するとともに、芝生マットエリア内にはハンモックやビーズクッション、子ども用の椅子、絵本、積み木などを設置し、自由楽しめる空間を演出しました。



～歩行者優先道路化実施前の意向等～

実証実験実施前通行者アンケート

目黒川沿いの区道では自動車や自転車の通行に危険を感じている傾向がある

・目黒川沿いの区道を歩く際に不安・不満を感じたことについては、「自動車・自転車の通行に危険を感じる」が高くなっていました。

歩行者優先化を良いと思う意見は多い

・歩行者優先化を良いと思うかについては、「思う、やや思う」という回答が7割を超えました。
 ・範囲は「目黒川沿いの区道全体」、日時は「時間や曜日限定」、あわせて実施・充実してほしいことは「ベンチ・テーブル等の休憩スペースの設置」を望む声が多い傾向にありました。

～歩行者優先道路化によるまちの変化～

交通量調査

歩行者交通量が通常時と比べて増加した

・実施前より実施時の方が、日の出橋周辺・合流点遊び場付近の歩行者交通量が増加しました。

渋滞など交通への影響は見られなかった

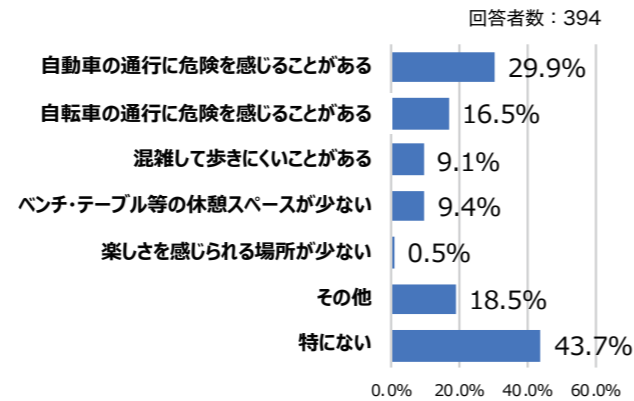
・周囲の道路で渋滞やトラブルなどは生じませんでした。

アクティビティ調査

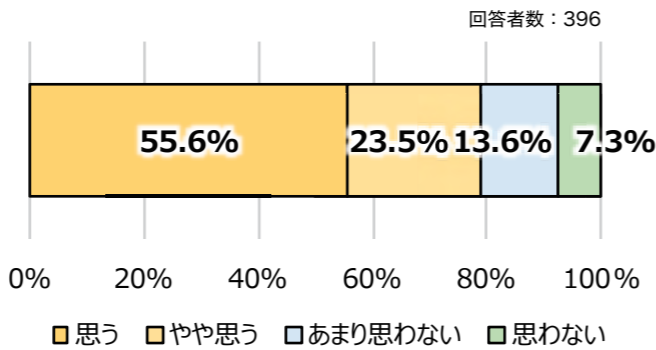
多様な居場所の創出につながっていた

・実証実験実施時での人々の行動について、「任意行動」と「社会行動」に着目して集計・分析した結果、居心地が良い良質な空間で起こるとされる「社会活動」が全体の約7割を占めました。

・13時～15時の間で「飲食(複数)」、「休憩・眺める・会話(複数)」、「芝生で遊ぶ」、「子供を見守る」などが多く、地域の人々の多様な居場所の創出につながっていました。



【目黒川沿いの区道を歩く際に不安・不満を感じたこと】



【目黒川沿いの区道で歩行者優先化を行うと良いと思うか】

		発生数
任意活動	飲食(個人)	21
	休憩・眺める(個人)	78
	寝そべる(芝生)	53
場所や時間が許す時に行われる活動	寝そべる(ハンモック)	211
	読書・仕事	9
	スマホ操作	97
合計		469 (31.2%)
社会活動	飲食(複数)	184
	休憩・眺める・会話(複数)	281
他者の存在を前提とした活動	芝生で遊ぶ	315
	子供を見守る	253
	合計	1,033 (68.8%)
全合計		1,502

【歩行者優先道路化区間でのアクティビティの発生状況】

～歩行者優先道路化の評価と今後の意向～

実証実験実施時通行者アンケート

居心地の良い環境形成につながる評価が得られた

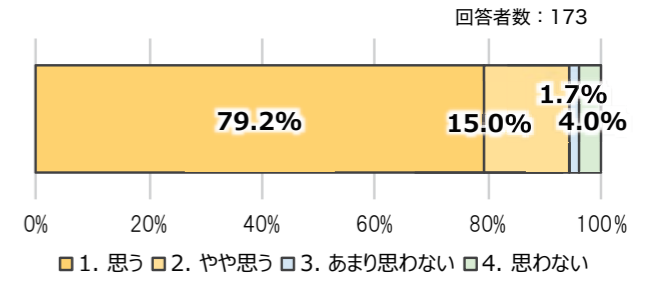
・歩行者優先道路化に対する評価は、歩きやすさ、休憩しやすさ、居心地のよさについて「思う、やや思う」と回答した人はいずれも8割以上でした。

・歩行者優先道路化した場合に、目黒川沿いでのごし方は変化すると思うかを尋ねたところ、「もっと長く滞在したいと思う」、「今まで以上に頻りに目黒川沿いを訪れたいと思う」が高くなりました。

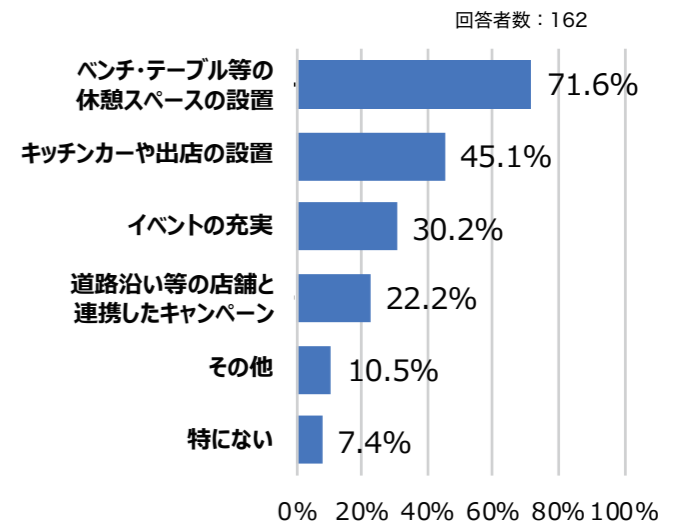
今後も歩行者優先道路化の実施を求める意見が得られた

・今後も行うと良いと思うか尋ねたところ、「思う、やや思う」が9割以上を占めており、実施前のアンケートよりも高い結果となりました。

・範囲は「目黒川沿いの区道全体」、日時は「時間や曜日限定」、あわせて実施・充実してほしいことは「ベンチ・テーブル等の休憩スペースの設置」や「キッチンカーや出店の設置」を望む声が多い傾向にありました。



【目黒川沿いの区道で歩行者優先道路化を行うと良いと思うか】



【歩行者優先道路化とあわせて目黒川沿いで実施・充実してほしいこと】

まとめ

【目黒川沿いの区道に対する人々のニーズ】

- ゆとりのある歩行環境や滞留・交流空間の確保が求められている
- 目黒川沿いの区道の歩行者優先道路化を良いと思う意見は多い
- 目黒川沿いの区道全体や駅前周辺で、落ち着きやゆとりを感じながら交流や自然を楽しめる場づくり・活動づくりが有効
- 近隣住民への事前告知の徹底等の改善が必要である

【目黒川沿いの区道の利活用に関する可能性・効果】

- 歩行者優先道路化による渋滞など自動車等の交通への影響は見られなかった
- 荷捌き車などへの対応の改善が必要である
- 歩行者優先道路化が歩きやすさの向上やまちの魅力となる居場所づくりにつながる

東京都市大学による 未来ビジョン策定に向けた提案

- 未来ビジョンの策定にあたっては、東京都市大学都市プランニング研究室が参加し、目黒川道プロジェクトの調査を支援しました。
- そして調査を通じて把握したナカメの強み・弱みなどをもとに、「Serendipity - 幸運な出会いのある街 -」をコンセプトとして、その実現に向けた施策を提案しました。

提案の流れ

- 歩行者優先道路化の実施前及び実施時における調査の企画・準備・実施・集計・分析を担い、調査結果をもとに未来ビジョンの提案を行いました。

歩行者優先道路化実施前

歩行者優先道路化実施前の
通行者アンケート

歩行者優先道路化実施前の
交通量調査

歩行者優先道路化実施時

歩行者優先道路化実施時の
通行者アンケート

歩行者優先道路化実施時の
交通量調査

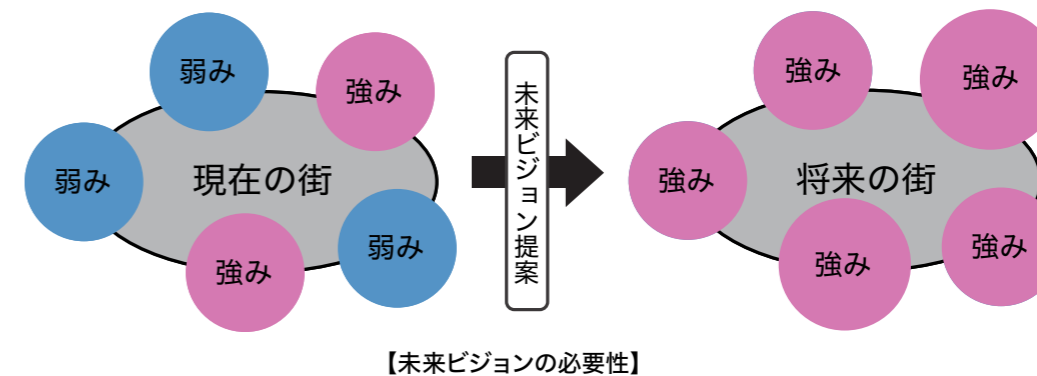
アクティビティ調査

未来ビジョン策定に向けた提案



中目黒の未来ビジョン策定に向けた提案

- 未来ビジョン策定に向けた提案をする上で、現在の中目黒の強みと弱みに焦点を当て、弱みは強みへと変化させ、強みは更なる強みへと変化させることを未来ビジョンの方向性として考えました。
- 中目黒の強みは豊富な地域資源であると考え、「人」「店舗」「自然」の3つに分類しました。中目黒に古くからお住まいの人や、中目黒を拠点にクリエイティブな分野で活躍される人のどちらも中目黒に愛着を持っていると感じました。そして、街にはそんな人々の受け皿となる地元感あふれる店舗や感度の高い店舗など様々な種類の店舗が混在しています。さらに、中目黒の代名詞ともいえる目黒川や桜などの自然があります。この3つの地域資源が中目黒特有の強みであると考えられます。
- 弱みについては、目黒川沿い区道の既存課題である「滞留空間の不足」が挙げられます。それに加え、「自然」以外の地域資源と来街者や趣味嗜好の異なる人々がつながる場が限られている点も挙げられます。地域資源が表出する場である時間消費空間が不足していることから、「人」「店舗」とつながりを持つ機会が限られています。これは強みと関われないという弱みになります。
- 中目黒の豊富な地域資源が強みである一方で、地域資源とつながる場が限られていることを改善し、弱みを強みに変えるため、中目黒に時間消費空間を創出する必要があります。
- そこで、「Serendipity - 幸運な出会いのある街 -」をコンセプトとして提案します。時間消費空間を新たに創出し、現状では偶発的に出会うことの難しい地域資源を都市に表出させます。これにより、街の魅力を最大限に引き出すことを目指します。



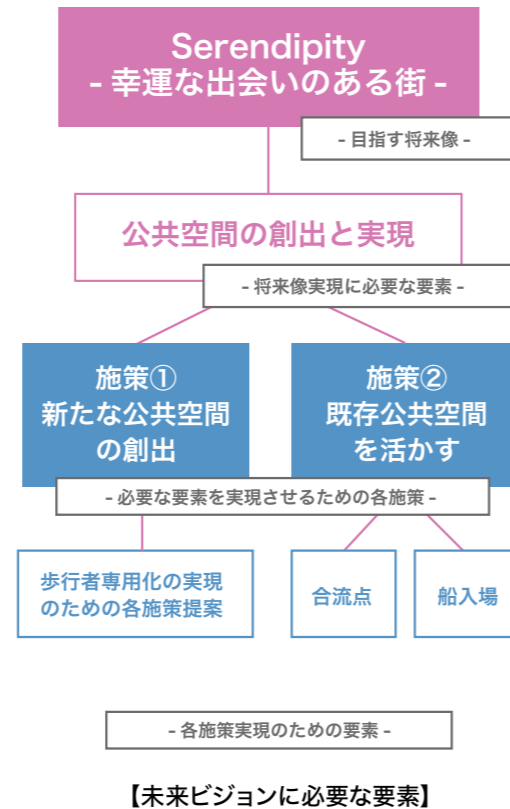
Serendipity

- 幸運な出会いのある街 -

■「Serendipity – 幸運な出会いのある街 –」の実現には、平常時の中目黒でもSerendipityを喚起させるために、不足している時間消費空間を新たにつくり出す「公共空間の創出」とすでに中目黒にあるものの活用しきれていない公共空間をより良くアップデートさせる「公共空間の充実」が必要な要素であると考えます。

■「公共空間の創出」では、実証実験と同様に目黒川沿いの区道を対象として歩行者優先化を行います。

■「公共空間の充実」では、中目黒の既存の公共空間である『合流点遊び場』『目黒川船入場』を対象とします。公共空間の特性を活かしながら、時間消費できる空間を創出することで、既存の公共空間でSerendipityを喚起させることを狙いとします。



施策 2-1

『人・自然・店舗』地域資源の合流点
～中目黒をマルっと感じられる場～

「広場が分断され、うまく活用されていない」「目黒川との親水性が低い」という課題を解決し、住民や来街者、ワーカーによって多様な利用が生まれ、出会いの機会を広げることを目的に、2つの広場をつなげるウッドデッキと、合流点の区道に面する部分の滞留階段の設置を提案します。



【ウッドデッキ・滞留階段の設置】

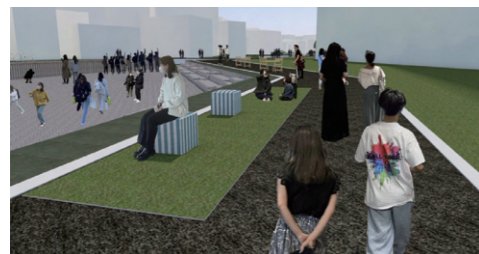
施策 1

『歩く・食べる・見つける』区道で生まれる出会い
～地域資源とつながる場～

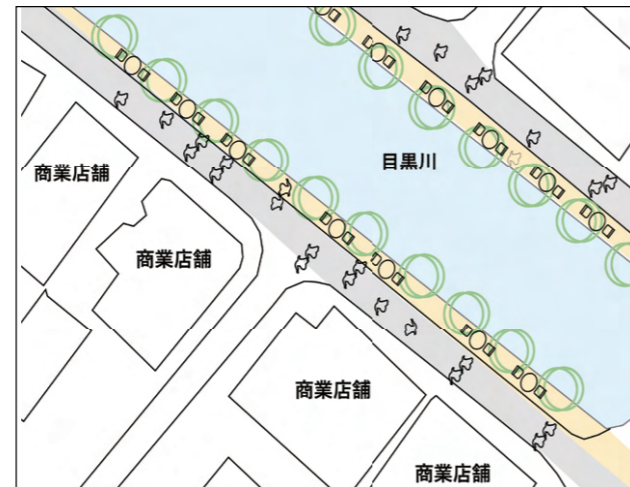
人々の出会いの幅を広げ、出会いの機会を増やす場とすることで、Serendipityを喚起することを目的に、目黒川沿い区道を歩行者優先化し、区道に面する店舗のオープンテラス設置や路上販売、ベンチ・テーブルなどのガーデンファニチャーを設置することを提案します。



【オープンテラス設置や路上販売の誘致】



【ベンチやテーブル、芝生マット等の設置】



施策 2-2

「船入場行ってみない？」を何度でも
～中目黒の気になる賑わいの場～

多種多様なイベントを催すことで「めぐり会い」の機会を創出することを目的に、イベントがない時でも滞留空間として利用可能な階段上のイベントスペースを整備するとともに、現在でも行われているイベントを更に活性化させることを提案します。



【イベントの活性化】



	用語	解説
ア行	インスタレーション	展示する空間全体で構成するアート。
	エリアマネジメント	地域における良好な環境や地域の価値を維持し向上させるための住民・事業主・地権者等による主体的な取組のこと。
	オープンイノベーション	新技術・新製品の開発に際して、組織の枠組みを越え、広く知識・技術の結集を図ること。
カ行	ガーデンファニチャー	庭園用のテーブルや椅子のこと。
	グランピング	glamorous (グラマラス) + camping (キャンピング) からの造語であり、山野に設置された豪華なテントやロッジに宿泊して、ホテル並みの快適なサービスを受けながら、自然との触れ合いを楽しむこと。
	グローバル・スタートアップ・キャンパス(GSUC) 構想	日本政府は、「グローバル・スタートアップ・キャンパス構想」において、グローバルな社会課題の解決と国内の経済成長を目指し、ディープテック分野におけるイノベーションとスタートアップのエコシステムの構築に取り組んでおり、そのフラッグシップとなる拠点を東京都心(目黒・渋谷)に創設予定。スタートアップ創出の種となる発見や技術の研究開発とこれらの成果を活用した事業化支援を切れ目なく実施していくこととしている。
	交通結節点	バスのほか、電車やタクシー、自動車、自転車など様々な交通手段の接続が行われる乗り換え拠点のこと。
	コミュニティベースドツーリズム	地域の歴史や文化、産業、暮らしなどを資源として、地域のコミュニティが主体となって開発するツーリズムのこと。
	コワーキングスペース	様々な年齢、職種、所属の人が、机・椅子・ネットワーク設備などの実務環境を共有(Co)しながら仕事(Working)を行う場所。

	用語	解説
サ行	サステナブルツーリズム	訪問客、旅行業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する持続可能な観光のこと。
	シェアオフィス	サテライトオフィスの一形態。複数の企業がフリーアドレス形式で利用するオフィスのこと。
	シェアモビリティ	車や自転車、電動キックボードなどの移動手段を共同で利用すること。
	スタートアップ	新規に事業の立ち上げや会社の設立を行うこと。
タ行	タウンミーティング	住民等の参加する対話型の集会のこと。
	ダブルワーカー	定職をもちながら、夜間や休日などに他の仕事をして収入を得ている人。
	デジタルツイン	インターネットに接続した機器などを活用して現実空間の情報を取得し、サイバー空間内に現実空間の環境を再現すること。
	都市再生推進法人	都市再生特別措置法に基づき、地域のまちづくりを担う法人として、市区町村が指定する行政の補完的機能を担う団体。
	都市再生整備計画	都市再生特別措置法に基づき、市区町村によって作成される計画で、地域の特性を踏まえ、まちづくりの目標と目標を実現するために実施する事業等を記載したもの。

	用語	解説
ナ行	中目黒駅周辺地区整備計画	「中目黒駅周辺地区整備構想」で示した『街づくりの方針』の実現を目指し、それらの進め方等を設定した「中目黒駅周辺地区整備方針」を踏まえ、必要となる整備メニューや具体的な事業内容、事業者、及びスケジュールを定めるもの。
	ニューノーマル	新たな常態・常識、新常态。社会に大きな変化が起こり、新たな常態・常識が定着すること。
	ノマドワーカー	「ノマド」(nomad)とは、英語で“遊牧民”を指す言葉。定住地を持たない遊牧民のように、オフィスに縛られることなく、働く場所を自由に選択しながら仕事をする働き方のこと。
ハ行	パーゴラ	軒先・庭などに作る格子状の日陰棚のこと。
	ビッグデータ	ボリュームが膨大でかつ構造が複雑であるが、そのデータ間の関係性などを分析することで新たな価値を生み出す可能性のあるデータ群のこと。例えば、ソーシャルメディア内のテキストデータ・画像、携帯電話・スマートフォンが発信する位置情報、時々刻々と生成されるセンサデータなどがある。
	ブリージャー	Business(ビジネス)とLeisure(レジャー)を組み合わせた造語。出張等の機会を活用し、出張先等で滞在を延長するなどして余暇を楽しむこと。
	歩行者優先道路化	歩行者天国や歩行者専用化によって、車の通過等を気にすることなく、居心地が良く安心して歩きやすい道路にすること。
マ行	マイクロツーリズム	近隣地域内での観光のこと。
	ミクストユース	複合的な土地利用のこと。

	用語	解説
	みどりの散歩道	区内に設定された散歩道のこと。
	目黒区基本計画	子育てや教育、福祉、まちづくり等、目黒区の政策に係るすべての分野を含む中長期の総合計画。区政において今後10年間に取り組むべき課題と施策の基本的な方向を、総合的かつ体系的に示し、基本構想に掲げるまちの将来像「さくら咲き 心地よいまち ずっとめぐる」を実現することを目的としている。
	目黒区都市計画マスタープラン	都市計画法に基づき、市区町村が都市計画に関する基本的な方針を定めたもの。
	モビリティ	交通に関する技術、サービス等により提供される、人、モノの移動手段のこと。
ラ行	リノベーション	増築や改築、建物の用途変更など、価値を高めるための改造・機能の付加を行うこと。
	ローカルメディア	地域の情報を発信している情報媒体のこと。
アルファベット	AI	人工知能のこと。
	DX	デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation)の略で、情報通信技術の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
	IoT	Internet of Thingsの略で、「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。
	Serendipity	素敵な偶然に出会うことや予想外のことを発見すること。